

文化人の 見た 近代アジア

全24巻（分売可）

◆監修 竹松良明 大阪学院短期大学助教授

作家・画家・ジャーナリストらが自由な眼でとらえたもう一つのアジア像。いま、アジアへの理解を深めるための貴重な記録。

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBOU

薦
す
推
し
ま
す

北進論・南進論の内実を知るために 神谷 忠孝

明治政府が唱導した「北守南進」政策は「偽滿州」帝国の樹立以後、急速に南進政策に重点が置かれ太平洋戦争へと拡大していったという歴史事実がある。その過程に文化人がどのように関与したかについては、多くの著書があったにもかかわらず人々の目にふれることなく長い間埋もれたままになっていたのである。

「文化人の見た近代アジア」全二十四巻に収められた著書は古書店でもめつたにでないものであり、歴史の実態を知るうえで貴重である。近年盛んになってきた日本の植民地、占領地の研究に多いに寄与することはまちがいない。

文化人の現地報告が貴重なのは、為政者の目論みを見抜きながら現地の人々の生活を冷静に観察しているからである。総体的に見れば、アジアの人々が何に苦しんでいるかということが浮かびあがってくる。

自主的に出かけた人、徴用された人、文化使節として派遣された人など動機はさまざまであるが、初めて接したその国の人々の生き方に共感し、異文化を積極的に学ぼうとする姿勢が共通している。

時代は今、アジアの人々と日本人がどのように共生するかという段階にきている。かかるおりしも、異文化に最初に接した文化人の記録を読むことは将来のアジア理解を深めるために大事であることを確信する。

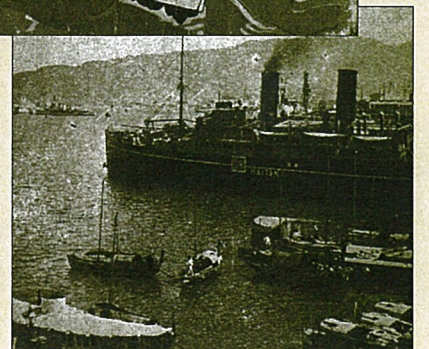
（北海道大学名誉教授・北海道文学館理事長）



吉尾なつ子（馬上の人物）



右下から豊田三郎・井上友一郎・新田潤



薦
す
推
し
ま
す

アジアとの〈共生〉を目指すために 木村 一信

「二二世紀はアジアの時代」との声があたりに満ちている。たしかに、世界の人口の半数近くを有し、大陸や半島、島嶼などからなる広大な地域を考えあわせると、アジア地域の盛衰が世界の動向を左右するといっても過言ではない。さまざまな面において多様さを持っているこの地域の〈共生〉を目指すことは、いまの私たちにとつての一大課題であるだろう。ひるがえって考えてみると、実は二〇世紀もまたアジアの時代であったとみなしうるのではないだろうか。近代化の苦闘期にあつた東アジア地域、西洋列強の植民地支配からの脱却を目指し、国民国家形成に尽力していた東南・西南アジアの地域などは、いくつかの大きな戦争を経験する中で、その命運が世界のそれと重なっていたと捉えられよう。

こうした「アジアの時代」の諸相を、日本のいわゆる文化人たちはどのような思いでもつて見つめ、考え、表現し、かつ、いかなるアジア体験を有したであろうか。それらを一度はトータルに考えなければ、私たちは、アジアの時代についての認識を持つことも、それを進展させることもできないであろう。いまここに、竹松良明氏の監修・編集により、また、氏と問題意識を共有する気鋭の研究者たちの解説によって、それらの言説が私たちの前に提示された。現代では入手することの困難、かつ貴重な文献が多く含まれている。二〇世紀のアジアと日本との関わりを、文化的、歴史的、社会的、文学的に鳥瞰しようと共により、二二世紀のアジアとの〈共生〉を示唆する言説を手にしうることは大きな喜びである。

（立命館アジア太平洋大学教授）

監修のことば

大阪学院短期大学助教授

竹松 良明

明治四（一八七二）年から明治六年にかけて岩倉使節団が、欧米の先進諸国をつぶさに見届けたその興奮の余熱の残る眼で、帰路の西アジアから東南アジアを眺めた時、そこには貧困と無知とそして豊かな資源の中に安住する「怠惰」な逸民のイメージが浮かび上がった。「民ノ繁息スルコトモ、亦草木ト一般」（久米邦武編『米欧回覧実記』、博聞社、明治二一年）というような、文明の実利を基軸としたこの観点を近代のアジア観の出発点に据えた上で、現在に至るまでの政治・経済・軍事に関わる対アジア意識の目まぐるしい変遷を思えば、そこには対西欧の課題を揺るがすほどの、身近な難問としてのアジア問題が歴史の必然として山積していた感がある。

明治この方海外への渡航・滞在の記録の華は欧米ものであったが、昭和一〇年代に入って国際的緊張の中でそれはアジアものに逆転する。満州事変・日中戦争に前後してまず中国、さらに昭和一五（一九四〇）年における従来の「南守北進」から「北守南進」への軍事方針変換に伴って東南アジアが、外地関係の書物を席捲していく。ここに集めたアジアの旅行記・ルポルタージュ・随筆の類は、まさにそうした風雲急を告げる危機意識の中で各々が一個人の資格で確かに見届けようとしたアジアの姿でありその印象である。二冊ほど太平洋戦争開始後のいわゆる南方徴用作家の従軍ものが入っているが、多くは日中戦争下にもかかわらず時局に囚われない自由な眼に映じた新鮮なアジアを描いている。画家・ジャーナリストその他を含みつつ作家の著作が主となるが、ほとんど個人全集・作品集を持たない、いわゆる単行本の作家たちである。中には、『日本近代文学大事典』に立項されていない作家も数人いるが、ここを選んで著作はたとえ作家の名が文学史の波間に没しようとも、一人の日本人が真摯な眼差しでアジアを見つめた貴重な記録として、歴史的に登録されるべきものであることを疑わない。



作家、画家、ジャーナリストなど、文化人の自由な眼に映った近代アジアの姿。いま、アジアと日本との〈共生〉を考えるための基礎文献。

全24巻の構成

●全24巻揃定価：本体263,000円＋税 ISBN4-8433-0697-5 C3393

1 ツンドラ警備 霜野二彦著
ISBN4-8433-0698-3 ◎本体10,000円 [樺太]

酷寒とツンドラのなかで、兵士として北方の警備にあたった画家がとらえたサガレンの風土や原住民の姿。現地のスケッチを多数収録。
昭和一七年 鶴書房 (解説・村田裕和)

9 魔都 村松梢風著
ISBN4-8433-0706-8 ◎本体12,000円 [上海]

あらゆる秘密と罪悪が渦巻く「魔都」上海。その魅力の虜となった著者の筆は、国際都市として知られた上海の風俗を詳細に再現した。
大正一三年 小西書店 (解説・和田博文)

17 仏印・泰・印象記 木村彩子著
ISBN4-8433-0714-9 ◎本体8,000円 [ベトナム・タイ]

フランスの植民都市として発達したサイゴン。その都会的な洗練を若き日本女性はどうのように受容したか。家族に宛てた書簡も併録。
昭和一八年 愛読社 (解説・竹松良明)

2 千島 北方探険記 吉尾なつ子著
ISBN4-8433-0699-1 ◎本体11,000円 [千島]

ハマナスの花香る択捉島を単身訪れた女性作家と、鮭鱒漁や捕鯨に従事する島民との心の交流。千島の人々の生活や産業の貴重な記録。
昭和一七年 三崎書房 (解説・田村修二)

10 新しき上海のプライベート 吉行エイスケ著
ISBN4-8433-0707-6 ◎本体11,000円 [上海]

上海事変勃発の前年、上海に遊んだ著者がかつての花咲ける都を回想した書。上海の色彩的な都市の魅力余すことなく描出したもの。
昭和七年 先進社 (解説・和田博文)

18 仏印への途 小松清著
ISBN4-8433-0715-7 ◎本体12,000円 [ベトナム]

仏印文化工作において、安南民族が現実は何を必要としているかを理解することの必要性を説く著者の、人間的な真情が溢れた旅行記。
昭和一六年 六興商会出版部 (解説・真銅正宏)

3 半島の朝 湯浅克衛著
ISBN4-8433-0700-9 ◎本体10,000円 [朝鮮]

日韓併合後、急速に近代化の波が押し寄せた朝鮮。「心田開発」のローガンの下で、半島農民の生活はどのように変化したかを描く。
昭和一七年 三教書院 (解説・真銅正宏)

11 支那人・文化・風景 小田嶽夫著
ISBN4-8433-0708-4 ◎本体11,000円 [上海]

上海に逗留した際の見聞記と、魯迅・茅盾らの上海を拠点とした現代中国作家論を収録。巻末に上海を舞台にした小説「泥河」を付す。
昭和一二年 竹村書房 (解説・大橋毅彦)

19 マライの静脈 寺崎浩著
ISBN4-8433-0716-5 ◎本体10,000円 [マレーシア]

著者がマレーに報道班員として従軍したときの記録。シンガポール陥落後、占領下のペナンにおける現地人への宣撫の様相が描かれる。
昭和一八年 春陽堂書店 (解説・土屋忍)

4 わが風土記 張赫宙著
ISBN4-8433-0701-7 ◎本体9,000円 [朝鮮・満洲]

日本に帰化した朝鮮人作家・張赫宙の随筆集。故郷の追想記や朝鮮紀行のほか、満洲移民や朝鮮文学について論じたエッセイを収録。
昭和一七年 赤塚書房 (解説・許南薫)

12 香港 中野実著
ISBN4-8433-0709-2 ◎本体11,000円 [香港・南支]

主として香港・広東で宣伝報道の任に当たった著者の事変下の記録。表題作は、香港の表情を暴いた中国青年の手記を基にしたもの。
昭和一六年 蒼生社 (解説・平野晶子)

20 ジャワの爪哇の旅 加藤朝鳥著
ISBN4-8433-0717-3 ◎本体15,000円 [インドネシア]

ジャワに渡った英文学者が、現地の習俗、芸術、宗教などに触れながら、故国日本に繋がれた自己を見出す。「爪哇渡航案内」を併録。
大正一二年 新光社 (解説・和田桂子)

5 満洲旅日記 井上友一郎・豊田三郎・新田潤著
ISBN4-8433-0702-5 ◎本体10,000円 [満洲]

特急「あじあ」、馬車、トラックなどで、それぞれに満洲各地を巡る三人の作家の行動的旅日記。三者三様にとらえた満洲国の諸相。
昭和一七年 明石書房 (解説・黒田大河)

13 新台湾行進曲 北村兼子著
ISBN4-8433-0710-6 ◎本体15,000円 [台湾]

婦人文化講演会講師として台湾に招かれた著者は、わずか半月の滞在で精力的に各地を取材。鋭敏な観察眼で台湾の諸相を描く旅行記。
昭和五年 婦人毎日新聞台湾支局 (解説・平野晶子)

21 ジャワ日記 三雲祥之助著
ISBN4-8433-0718-1 ◎本体10,000円 [インドネシア]

昭和一六年、高見順とジャワ、バリ島方面を旅行した際の感想紀行文。インドネシアの文化的な様相を伝えた書として貴重なもの。
昭和一七年 大日本出版 (解説・宮内淳子)

6 大陸に生きる 望月百合子著
ISBN4-8433-0703-3 ◎本体13,000円 [満洲]

開拓移民村のルポのほか、満洲婦人の問題について論じた文章を収める。著者は満洲新聞婦人部長として、建国事業に情熱を注いだ。
昭和一六年 大和書店 (解説・宮内淳子)

14 南洋群島 丸山義二著
ISBN4-8433-0711-4 ◎本体11,000円 [パラオ・ヤップ他]

昭和一五年、著者は南洋群島を一ヶ月間周航。その見聞をまとめたもの。パイナップル栽培を営む農業移民の生活などを活写している。
昭和一七年 大都書房 (解説・黒田大河)

22 印度は語る 野口米次郎著
ISBN4-8433-0719-X ◎本体12,000円 [インド]

インドに講演旅行に赴いた際の記録。ガンジーやタゴールとの会見や、仏教美術への感動を通じて、インド文化の偉大さを伝えた書。
昭和一二年 第一書房 (解説・和田桂子)

7 現代支那の文化と芸術 一戸務著
ISBN4-8433-0704-1 ◎本体12,000円 [北京]

日中戦争下の中国における芸術・文化政策、日本文化の影響等についてまとめたもの。当時の日本人に中国理解を呼びかけた書である。
昭和一四年 松山房 (解説・小川直美)

15 比島日記 阿部(三宅)艶子著
ISBN4-8433-0712-2 ◎本体11,000円 [フィリピン]

著者が陸軍省の要請で、視察報告のためフィリピンに渡ったさいの日記。現地の人々・景色・習俗への身近な愛情に満ちている佳品。
昭和一九年 東邦社 (解説・竹松良明)

23 黄色い沙漠―画家の見たイラン― 磯田蒼工著
ISBN4-8433-0720-3 ◎本体12,000円 [イラン]

旅の驢馬、水売り商人など、沙漠を旅する画家の絵心を喚ぶ幾多の風物。スケッチと共に語られる、見たまま感じたままのイランの姿。
昭和一七年 岡倉書房 (解説・村田裕和)

8 北支蒙疆戦線 長谷川春子著
ISBN4-8433-0705-X ◎本体9,000円 [北支・モンゴル]

特別通信員として北支とモンゴルを巡った際の体験記。画家である著者が挿絵も描き、現地の民衆等の姿が女性の眼から活写される。
昭和一四年 暁書房 (解説・西村将洋)

16 万歳 チャイヨウ 岩崎栄著
ISBN4-8433-0713-0 ◎本体12,000円 [ビルマ・タイ]

太平洋戦争中、陸軍報道班員としてビルマ・タイに徴用された作家の、宣伝戦活動記録。戦争の中の日常がユーモラスに描かれている。
昭和一九年 泉書房 (解説・土屋忍)

24 ベルシャトルコまで 波斯より土耳古まで 縫田栄四郎・志賀重昂・山岡光太郎・笠間泉雄著
ISBN4-8433-0721-1 ◎本体6,000円 [ベルシャ・アラビア・トルコ]

第一次大戦後、石油の資源地として注目された中近東。ベルシャ・アラビア・トルコの近情や、イスラム教徒の生活についての講演録。
大正一五年 文明協会 (解説・西村将洋)

文化人の見た近代アジア

[監修] 竹松良明 大阪学院短期大学助教授 A 5 判上製/函入り

2002年9月刊行

●全24巻揃定価:本体263,000円+税 (分売いたします)

ISBN4-8433-0697-5 C3393

全24巻



関連企画のご案内

*詳細内容見本謹呈

<戦時下>の女性文学 全18巻

長谷川啓監修 A 5 上製 ●揃定価:本体236,000円+税
日中戦争~太平洋戦争期に刊行された、女性作家による
小説・戯曲・従軍記などの主要な単行本を精選復刻。

日本植民地文学精選集 全47巻

A 5 上製 ●揃定価:本体574,000円+税
日本「内地」中心の文学史から抜け落ちた植民地の文学、
待望の復刊。歴史的価値が高い作品を厳選した決定版。

大正 中国見聞録集成 全20巻

小島晋治監修 A 5 上製 ●揃定価:本体230,000円+税
清王朝崩壊後の中国を旅した日本人による紀行文を精
選復刻。政治・産業から庶民の風俗に渡る幅広い記述。

本書の特色

- 大正期から昭和戦前期にかけての、文化人によるアジアの旅行記、ルポルタージュを精選しました。
- 作家、評論家、画家、ジャーナリスト、外交官などの著作を幅広く収録しました。
- 収録地域は、樺太・千島・朝鮮・中国・モンゴルから、東南アジア・南アジア・中近東までを網羅しました。
- 近代におけるアジアの人々の生活・風俗を知る上での一級資料です。
- 近代日本とアジアとの関わりが広い視野で俯瞰できる書目をラインナップしました。
- 各巻の巻末に第一線の研究者による解説(作家紹介、作品の背景、歴史的価値など)を付します。
- 文学のみならず、植民地・占領地の歴史研究にも大いに有益な資料です。

●特におすすめしたい方

大学図書館、公共図書館、近代文学・アジア近代史などの研究者。



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03 (5296) 0491
FAX.03 (5296) 0493
<http://www.yumani.co.jp/>
e-mail eigyou@yumani.co.jp

ゆまに書房 Tel.03 (5296) 0491/Fax.03 (5296) 0493 年 月 日

文化人の見た近代アジア 全24巻

ISBN4-8433-0697-5 C3393 ●揃定価:本体263,000円+税 (分売可)

セット

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

TEL ()

02.07/01.7000.N

ご注文書

お名前
ご住所